

WAKUWAKU通信

Dec.2017
Vol.1



特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク



OSEKKAERU

「やってみたい」を実現するために

数カ月に一回のペースでWAKUWAKUを支援してくださっている方向けのニュースレターを発行することに致しました。代表の栗林さんへ、WAKUWAKUにおける支援のあり方や最近の動向についてお話を伺いました。

— WAKUWAKUの活動における支援とはなんでしょう
— どうか？

全ての活動が、様々な支援によって成り立っています。例えば、子ども食堂だったら、食材や調理してくれる地域の方や寄附などの継続的な支援があるからこそできる活動です。みんなの支えたいという思いがWAKUWAKUという場に集まることで活動が出来ています。WAKUWAKUに対する支援は必要な支援への中間地点にすぎません。なので、支援をされたからには、しっかりと支援が必要な子どもやお父さんお母さんに届け社会へ還元していかなくてはなりません。

— WAKUWAKUの強みは地域の人を巻き込む力だと思のですが、毎年夏にプレーパーク主催でウォータースライダーのイベントを行っていますよね。あれは地域の人の支えがあってこそ出来ることだと思いますが、きっかけは何かあったんですか？

プレーパークを作るにあたって（2003年）、子どもたちと他のプレーパークに見学にいきました。子どもたちは自分たちのプレーパークでもウォータースライダーを「つくりたい」と言いましたが、豊島区からは作った遊具を設置するのは無理と言われました。それでも、子どもたちの「や

ってみたい」を実現できないかと思い、地域に昔から住む山本さん（現WAKUWAKU理事）仲介のもと地域の消防団や青年団に声をかけて実現しました。今年でやり始めて10年以上たちますよ。



今年は、約40名の東京豊島ライオンズクラブと地域の方達が協力のもと開催。

— 子ども食堂も様々な支援によって支えられていますよね？

子ども食堂は、そこにご飯が用意されているわけなので、いろいろな人の協力が必要です。調理してくれる人はもちろんのこと、それ以外に野菜やお米、お菓子、寄附などです。先日は山形の遊佐町から、カレーの食材一式をご寄附いただき、「遊佐カレーの夕べ」を実施しました。



当日は、遊佐から3人の方がかけてくれました。

— 子ども食堂が継続されて行くことが出来る要因はなんですか？

やりがいや楽しさがあるからだと思います。地域の人たちとそこで出会って「うちはどうやって料理するのよ」などの会話が自然と生まれて大人の出会いの場にもなっていますし、私も含めて子育てがひと段落するとワイワイ食べるということもなくなるので、参加する大人も楽しい場だと思います。

— 子どものための居場所が、大人の居場所にもなっているんですね。ところで、WAKUWAKUのような取り組みは全国各地に広がっていますか？

はい、広がっていますよ。何か一つの活動をきっかけに、次の活動が生れていきます。例えば、子ども食堂は、子どもの孤食という問題を解決したい人たちにとって、ハードルが低くやりやすい活動です。そして、子ども食堂に来た人たちがこういったことも子どものために「やってみたい」となり、そこから無料学習支援やフードバンクなどをやり始めたというところもあります。誰かに言われて「やってあげる」のではなく、子どもや親御さんと直接関わり「こまりごと」を聞く。そうすると知っている子のためにできること、出来る場が見つかる。それを創っていけるのが、住民を巻き込んだ取り組みの強みです。そんな「やってみたい」を出来る場がもっと増えればいいなあと思います。

— 子ども食堂は、「やってみたい」が作れる場でもあるんですね。

はい、そのきっかけになりやすい場ですね。この原点は子どものころの何かを「やってみたい」という思いと同じ

だなあと。子どもの「やってみたい」と大人の「やってみたい」どちらも出来る環境を様々な人とつながり創出していきたいです。

— ワクワクの今後の展望などありますか？

フードコープという取り組みを行う予定です。今年、豊島区、セカンドハーベスト・ジャパンと協同して、主にひとり親世帯の子育てに必要な「食」の支援を行いました。豊島区が広報することで、いままでつながっていない親子に食材を届けることができました。さらにそこから顔が見える関係を作りたいです。そして、お互いに支え合うひとり親のお母さん同士のコミュニティが出来ればいいですね。つながったお母さんは、子どもが大きくなったときには、今度は協力してくれる気持ちも生まれてくると思います。それで、フードコープということを考えて生協のように支え合うコミュニティを目指しています。まだ、計画段階なので具体的に決まったらご報告します。

— 来年の3月18日にWAKUWAKU祭りなるものがあると聞いたのですが？

はい、やりますよ。とにかく、WAKUWAKUに関わっている人が一堂に会するイベントです。活動を支えている仲間が集まることで、私たちだけがこの子を支えているわけじゃないんだ、みんなで支えているんだっていう連帯感が生れてくるんじゃないですかね。WAKUWAKUのような地域に根差した活動には特別なリーダーはいません。多様なカタチで参加しているひとりひとりがつながるから大きな力になっているんだと参加者の皆さんと実感したいんです。1年間温めてきた企画です(笑)。3月18日に開催しますので、皆さんも是非来てくださいね！！

— LGBTのイベントも最近行いましたよね。

今年の10月に行いました。3年前に一度行ったんですけ

ど、そのときは私たち大人が企画しました。今回は、主にQueer&Ally という団体で活動をしている若者と子どもたちが企画しました。なんでもWAKUWAKUがやるのではなく、WAKUWAKUのノウハウや繋がりも生

かして、細々と活動している若い団体を手助けし、その団体もしっかり行政と対話ができるようなことをしたいです。



「LGBTと恋」というテーマで開催。最後に、参加者それぞれの考えをパネルに記入してもらいました。(写真：栗林)

— これからは、そういう団体を支えていくことにも力を入れていくんですね。

はい、一緒に取り組んでいきたいです。若者の視点ってやっぱりすごくいいですから。無料学習支援などのボランティアで参加してくれている学生の話の聞くと、そんなアイデア私には思いつかないなんてことが多々あります。その価値観をどこかで取り入れていかないと社会も変わらない気がします。これから子育てをするのは若者です。それを受け入れWAKUWAKUだからこそ出来ることを融合させ「やってみたい」を一緒に考え実行する。それが、社会を変える近道だと思います。WAKUWAKUのローガンでもある「地域を変える 子どもが変わる 未来を変える」を実現するために、誰かの「やってみたい」という思いを応援していきたいです。

(語り手=栗林知絵子 聞き手・校正=水島政行)

ホームスタートこれまでの取り組み

乳幼児の家庭をボランティアが無料で訪問するホームスタート事業が昨年からはじめました。これまでに区内外の約15家庭を訪問しました。訪問するボランティアさん(ホームビジターさん)も18名になりました。利用者募集のリーフレットを配ったり、活動報告会を開催したり、といろんな人に知ってもらうために努力しています。1歳のお子さんのママは、最初は口が重かったのですが最後は「私はあまり話が得意じゃないんですが、ホームビジターさんと一緒にお料理を作ったりして、いろんなことを話せて良かったです」と言い、これまで足を運んだことのなかった近所の幼稚園のバザーに出かけると言って笑顔でお別れしました。

ほんのちょっとでも誰かが一緒にいて自分のことを大事に思ってくれて見守ってくれる、そんな安心感がママたちの「私はこれで良いのよね」という自信につながっていくのではないかと思います。ビジターさんも「ママがいろいろ工夫して頑張っていて、私も勉強になりました」「お子さんの間でトラブルがあってもママはそれぞれの話をよく聞き、こちらがハッとさせられることもありました」と振り返ってくれました。(荒砥悦子)

※ホームスタートとは？

未就学児のお子様がいる家庭へ地域の先輩ママが週1回2時間程度、計4~6回ご家庭を訪問。訪問中の活動は傾聴と(友人のように寄り添いながらお話を聴く)協働(育児や家事を一緒におこなう)です。訪問は無料です。



今年の6月18日に活動報告会を行いました。



ゲーム作り教室

毎週土曜日にWAKUWAKUホームにて開催されている、ゲーム作り教室。講師は、プログラマーの土屋さんという方で、写真は、Scratchというプログラミング言語を用いて、子どもたちとゲーム作りをしている様子。



普段、ゲームをやることがあっても、作ることはないの、子どもたちも興味津々。回を重ねるごとに、子どもたちのスキルも上達し、迷路ゲーム、シューティングゲーム、横スクロールアクションなど様々なものが作れるようになりました。(もう1つの写真は実際に子どもたちが作ったゲームです)

プログラミングの一端に触れることで、身近で使われているコンピューターがどのような仕組みで動いているかなど、新たな視点で考えることが出来るようになっていきたいと思います。

講師：土屋嘉廣(つちやよしひろ)

大学在学中は、都内の大学を中心としたボランティアサークル「池袋子ども会」にて、幹事長を歴任(2013年)。卒業後、東京・墨田区文花にある築70年の家屋を活用し、地域の子供達に向けた持続可能な学習支援の場「文花Lab」(ぶんからぼ)を設立・運営。
(WEBサイト：<http://www.bunka-lab.com>)



※WAKUWAKUホームとは？

宿泊にも対応できる子どものための居場所。2017年4月から実施。子どもや保護者がいつでも気軽に立ち寄れる場を目指しています。

どろんこ通信発行開始です

池袋本町プレーパークでは、4月から「どろんこ通信」と呼ばれるチラシを発行開始しました。主に、豊島区内の小学校や地域の方々を中心に月に1度配布しています。プレーパークの開催日やイベント情報、日々の出来事を写真付きで掲載しています。プレーパークの公式サイト内にて、いままで発行されたものを見ることが出来るので、是非ご覧ください。



池袋本町プレーパークのサイトへのアクセスは右記QRコードを読み取るか、「池袋本町プレーパーク」または「<http://playpark.tokyo>」で検索して下さい。



寄附・賛助会員でのご支援よろしくお願ひします。

「ゆうちょ銀行からお振込の場合」

【口座番号】00170-5-728808 【加入者名】豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

「ゆうちょ銀行以外からお振込の場合」

【店名】〇一八(読み ゼロイチハチ) 【店番】018

【預金種目】普通預金 【口座番号】5639629

ご寄附・賛助会員でお振込みされた方は、メーリングリストに加入致します。
ご希望のかたは、QRコードまたは、<http://toshimawakuwaku.com/kihusanzyo>よりご確認ください。



発行日：2017年12月 発行者：特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク
〒171-0014 東京都豊島区池袋三丁目5番21号 WEB：<http://toshimawakuwaku.com>

TEL：090-3519-3745 Mail：info@toshimawakuwaku.com